民間主導で起業支援

交流会、任意組織 … 広がる活動

目指すは起業家1000人

千葉市内で、民間主導による起業家育成が盛んになってきている。市内の企業が交流会を開催したり、メンターや経営コンサルタントら民間人で構成する起業家支援の任意団体「1000リーフパートナーシップ」が発足してセミナーなどを展開したりと、起業マインドを醸成している。「民間ならではの、起業家の実態に即した支援ができる」（1000リーフ運営委員長の比護隆一氏）との強みを最大限発揮し、他に類を見ない起業支援モデルの構築に急いでいる。

企業が交流会開く

立ち話の中に刺激・発見

市内企業が主催する「起業応援ビジネスマッチングin チバラボ」では、あらゆる世代との業種の人が交流する

8月21日の交流会には、130人以上が参加した

「いろいろな立場の人と交流できて、刺激になる。意識を高め、目的を明確にすることを学んで起業への道筋をつけていく」（農業コンサルタントでの起業を考えている坂口尚司氏）、「いろいろ知らなかったことを知ることができ、勉強になった」（服飾企画での起業を希望する斉藤久美子氏）。21日、市ビジネス支援センター中央分館「CHIBA－LABO（チバラボ）」（千葉市中央区）で開かれた交流会「起業応援ビジネスマッチングin千葉」では、起業家からこうした声が聞かれた。主催したのは、PLUS－Y（同、永田洋子社長）。2008年に市内で創業し、現在はチバラボの運営管理を受託している。会は5月に始まり、毎月開催している。認知度が向上し、毎回100人を超える参加者でにぎわっている。

参加者は起業家はもちろん、彼らを支援するメンターや会計士など多岐にわたっている。会に座席はない。参加者全員が立ち話をして、次々に話す相手を変えていくことで、さまざまな知見や発見を得ていくのが、交流会の主眼だ。次回の会は、9月18日19時から実施する。

交流会の会場になっているチバラボは、千葉市が造成して、3月に開所した。早くも20社が入居している。フロアに大机と30席を配置。席の間の壁をなくし、入居者の交流を促している。

1000リーフパートナーシップ

専門家を集めて支援

1000リーフは企業支援フェスタを主催し、起業家への情報提供を活発に展開している

支援の動きは、別の方面からも。会計・税務の専門家や経営コンサルタントや企業役員OBらが一堂に集い、「1000リーフパートナーシップ」という任意組織が、2011年に発足した。発足には、当時千葉市の経済部長だった皆川達也氏（現在は市東京事務所長）も携わった。2010年当時、経済部長に就任した皆川氏は、不安と希望が入り交じっていた。市内にある従業員4人以上の事業所数は3万806カ所（09年の経済センサス）と、当時の政令市中最下位だった。だが、このうち約1万事業所が市内企業と取引しており「事業所の増加で、市場が拡大する」と感じていた。このため、起業支援の分野に明るい人材を集めて11年に1000リーフを設立した。「1000リーフとは〝千葉〟をそのまま英語にしたもの。この名の通り1000人の起業者を誕生させる」との思いが込められている。

1000リーフには、200人以上の会員が参加し、細分化した支援を展開している。進行中の支援プロジェクトは「税務・会計」「法務」「大学発ベンチャー創出」「国際」「女性起業」「金の卵発掘・育成」「セカンドライフ」「IPO・M&A」「戦うチカラ開発」の九つ。セミナーや起業支援フェスタは、このテーマ別に開いている。起業を目指す人に対しては1000リーフに所属しているメンターが、ノウハウの提供や助言を通じても支援する。

これらの育成支援の効果は、じわりと広がっている。流通コンサルティング、グローイング・シーズ（千葉市花見川区）の渡辺幹夫社長は、「専門家の話を聞いて事業化などの方法を学び、背中を押された」と振り返る。

資金調達が課題

法人化も急務

とはいえ課題もある。1000リーフの比護隆一運営委員長は「プロジェクトに賛同する金融関係者を増やさねばならない」とする。資金調達は起業、事業継続の要になる。

「全てを1000リーフで賄うには限界がある」と比護委員長は、日本経団連が作ったNPO法人「産業技術活用センター（ITEC）」との連携にも力を入れている。ITECには大企業の役員OBらが多数在籍。よりきめ細やかな支援体制の拡充に励んでいる。さらにオープンイノベーション促進協議会とも組み、同会が主催するフォーラム「ローマの市場にて」にも積極的に参加している。フォーラムには、銀行員やベンチャーキャピタルが参加をしており、「市内の起業者が金融関係者らの目に触れる機会を多く作っていく」と比護委員長は意気込んでいる。

1000リーフの法人化に道筋をつけることも急務だ。渡辺社長も「信頼性を向上し、参加者を増やすためには法人化が必要」と指摘する。将来は社団法人化し、「チバラボの指定管理者になって、より強固な起業支援体制を構築できれば」（比護委員長）としている。この先、どのような展開になるのか。注目が集まる。

会社を興しやすい街に

経済活性化で地元盛り上げ

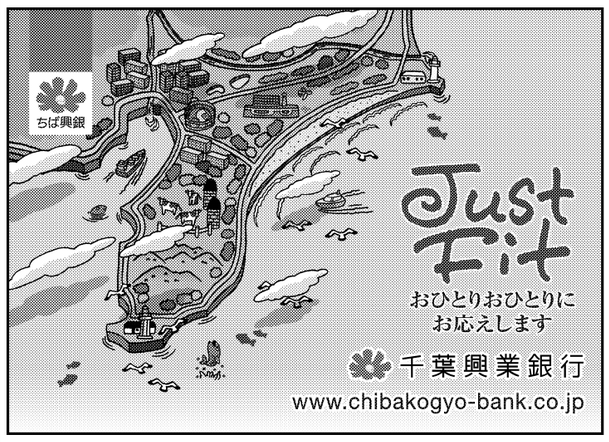
1000リーフパートナーシップ
運営委員長
比護　隆一氏

1000リーフパートナーシップは、私のような経営コンサルタントをはじめ、税理士、会計士、弁護士、中小企業診断士から、大学関係者、企業経営者まで約200人が集う任意組織。「起業するなら千葉だよね」を合い言葉に、あらゆる面で千葉市を「起業家が会社を興しやすい街」へと生まれ変わらせるべく、活動しています。

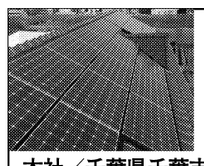
2年前の統計で、千葉市内の事業所数（従業員4人以上）は、当時の政令市中最下位でした。市を盛り上げるために経済活性化が不可欠で、その策として起業家支援を熊谷俊人市長が掲げ、それに賛同する形で組織が立ち上がりました。

セミナーや、起業家支援フェスタの他、民間主導だからこそできる「起業家のかゆいところに手が届く支援」を展開しています。会員は皆、ボランティアで参加しています。全会員に共通しているのは「千葉市への愛の深さ」です。愛しているからこそ、地元を盛り上げたい―。その一心で、今後も知恵をふりしぼり、起業しやすい街づくりを進めていきます。

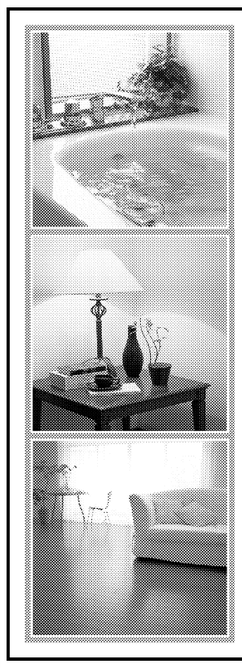
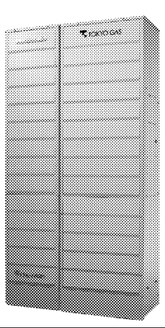
千葉市特集



人を思う。未来を思う。
商工中金
株式会社　商工組合中央金庫　千葉支店
〒260-0028　千葉市中央区新町3番地13
TEL 043-248-2345


総合仮設、太陽光発電工事
Patona パトナ株式会社
本社／千葉県千葉市緑区越智町1887番地　※2月に本社を移転しました。
TEL 043-295-6790　FAX 043-295-6791　http://www.patona-ymz.co.jp/

ベンチャー。
中小企業を支援
千葉産業人クラブ
〒260-0028　千葉市中央区新町19－13
（日刊工業新聞社 千葉支局内）
TEL.043-245-2711　FAX.043-245-2712


TOKYO GAS エネルギー・フロンティア
家庭用燃料電池「エネファーム」
家庭用燃料電池「エネファーム」は環境性に優れた新しい発電・給湯システムです。ご家庭の都市ガスから水素を取り出し、空気中の酸素と化学反応させて電気をつくります。その時出た熱も給湯に利用するため、高いエネルギー効率が得られます。水素を得る際に発生するCO_2の量も少なく、環境負荷の低減に貢献する21世紀にふさわしいエネルギーシステムです。

ENE・FARM エネファーム
お問い合わせ・資料請求先 0120-593039 受付時間 月～土 9:00～19:00（日・祝日除く）
http://www.tg-enefarm.com

印刷物の企画・制作　データ管理・情報処理
SEIBUNSHA 株式会社 正文社
〒260-0001 千葉市中央区都町1-10-6　Tel 043-233-2235　Fax 043-231-5562
http://www.seibunsha21.co.jp

千葉大学は、企業の方々との共同研究・共同研究講座・部門（平成24年4月スタート）を積極的に推進しております。
技術相談も受け付けております。
企業が主で入居する千葉大学知識集約型共同研究拠点への募集も常時受け付けております。
千葉大：研究者・施設・設備等を提供
共同研究講座
産業界等：資金・研究者・設備等を提供
共同研究講座・共同研究部門
● 2年から5年の設置（更新可）
● 共同研究に専念
● 知的財産の活用を重視した取決め
● 出資企業と大学が協議して運営
・千葉大
・出資企業（出向）
・その他の機関
選考
教授又は准教授　1名
准教授又は助教　1名
企業研究者
ポスドク、大学院生
兼任教授、准教授 etc.
事務員
千葉大学産学連携・知的財産機構
〒263-8522　千葉市稲毛区弥生町1－33
TEL　043－290－3565
FAX　043－290－3519
E-mail　ccrcu@faculty.chiba-u.jp
URL　http://www.ccr.chiba-u.jp/